

教訓談

芥川龍之介

青空文庫

あなたはこんな話を聞いたことがありますか？ 人間が人間の肉を食った話を。いえ、ロシアの飢饉ききんの話ではありません。日本の話、——ずつと昔の日本の話です。食ったのは爺ぢいさんですし、食はれたのは婆ばあさんです。

どうして食つたと云ふのですか？ それは狸たぬきの悪わる企たくみです。婆ばあさんを殺した古ふる狸だぬきはその婆ばあさんに化ばけた上狸の肉を食はせる代りに婆さんの肉を食はせたのです。

あなたも勿論知つてゐるでせう。ええ、あの古いお伽とぎ噺ばなしです。かちかち山の話です。おや、あなたは笑つてゐますね。あれは恐ろしい話ですよ。夫は妻の肉を食つたのです。それも一匹の

獣けものの為に、——こんな恐ろしい話があるでせうか？

いや恐ろしいばかりではありません。あれは巧妙な教訓談です。我々もうつかりしてゐると、人間の肉を食ひかねません。我々の内にある獣の為に。

しかし最後は幸福です。狸は兎に亡されるのですから。

火になつた焚たき木を負おつてゐる狸、泥どろ舟ふねと共に溺おぼれる狸、——

——あの狸の死を御覧なさい。狸を亡すのは兎です。やはり一匹の獣です。この位意味の深い話があるでせうか？

わたしはあの話を思ひ出す度に、何か莊嚴な気がするのです。

獣は獣の為に亡され、其そこ処に人間は榮えました。ツアラトストラでもこの話を聞けば、きつと微笑を浮べたでせう。

あなたはまだ笑つてゐますね。お笑ひなさい。お笑ひなさい。
あなたの耳は狸の耳なのでせう。

(大正十一年十二月)

青空文庫情報

底本：「筑摩全集類聚 芥川龍之介全集第四卷」筑摩書房

1971（昭和46）年6月5日初版第1刷発行

1979（昭和54）年4月10日初版第11刷発行

入力：土屋隆

校正：松永正敏

2007年6月26日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.waozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたった

のは、ボランティアの皆さんです。

教訓談

芥川龍之介

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>